

『東アジア世界史研究センター年報』第3号の刊行にあたって

専修大学「東アジア世界史研究センター」は、私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター事業）として採択された研究テーマである「古代東アジア世界史と留学生」の諸課題を究明するため、このテーマに関心をもつ国内外の研究者と連携して検討を重ね、本年度3年目となる。

これまで試みてきた第1回及び第2回の公開講座及びシンポジウムの成果は、『東アジア世界史研究センター年報』第1号・第2号に反映させることができた。

「東アジア世界史研究センター」は、本事業を進める中で研究の〈センター〉としての機能を十全なものとするために、当初の計画には無かったが、テーマに関心をもつ研究者間の意見・情報交換ができる機動性に富んだ場として研究会を新設することにした。

『東アジア世界史研究センター年報』の第3号にあたる本号は、この研究会の成果の過半を収録したものである。

これまで、研究会は、以下の期日で、神田校舎で3回実施している。

第1回研究会 2008年2月16日（土）

第2回研究会 2009年2月7日（土）

第3回研究会 2009年7月25日（土）

このうち、第1回の研究会は、吉澤悟氏（奈良国立博物館 学芸課資料室長）に「正倉院宝物と遣唐使」、木村誠氏（首都大学東京 都市教養学部教授）に「新羅遣唐使の諸問題—研究の現状と課題」、田中史生氏（関東学院大学 経済学部教授）に、「遣隋使・遣唐使の〈身体〉—渡来人と留学生—」の報告をしていただくことができた。

しかし、第1回の研究会については、後日の原稿化を予めお願いすることなく実施したため、また、報告後の期日も経過しており、改めて原稿化することをお願いするのは困難と判断し、本誌への収録を断念した。

幸い、第2回・第3回の研究会は、各報告者に報告後の本誌への寄稿をお願いしておいたこともあり、いずれもお忙しい中、時間を割いて原稿化していただくことができた。

寄稿いただいた執筆者各位に、御礼申し上げます。

3回の討議は、いずれも、報告者を含め30名前後の参加者で活発に行われている。その様子的一端は、「東アジア世界史研究センター」のホームページ (<http://www.senshu-u.ac.jp/~off1024/>) でもうかがうことができる。

また、本誌には、専修大学大学院文学研究科に在学中の小田愛氏の研究ノートを収録した。日本古代の著名な天然痘の大流行と遣唐使との関連を探究した意欲的な論です。本誌が研究テーマに関心をもつ若い研究者の成果を発表する場としても活用してもらえればと考えております。